プレス国民民主（号外）平成９年４月２５日　第３種郵便物許可

参議院議員 全国区
大島九州男（くすお）

福岡事務所
福岡県直方市感田 1466-3
国会事務所
東京都千代田区永田町
２－１－１
参議院議員会館910号室
電話03－6550－0910
kusuo_ooshima02@sangiin.go.jp

ホームページもご覧下さい
http://kusuo-o.net/
大島九州男キャラクター Qちゃん

第196回 通常国会閉幕

おかげさまで今国会も充実した仕事をさせていただくことができました。ご支援くださる皆様に心から感謝いたします。

さて、今国会の重要法案とされた**働き方改革関連法**も**カジノ解禁のＩＲ関連法**も多くの問題と、まだこれから決めていかなければいけないこと（政省令、条例、細則等）がたくさんあります。

私は「やれることは何か」と考え、働き方改革法案には４７項目の付帯決議、カジノを解禁するＩＲ法案には３１項目の付帯決議作成に参画。

加えて「**安心労働社会実現法案**」「**公文書改ざん防止法案**」なども提案させていただきました。

社会問題となっている子供の虐待に対しては①児童相談所における児童福祉司の増員、②児童相談所相互間の情報共有の促進、③児童虐待相談対応職員の待遇改善の改正を行う「**児童虐待防止法案**」に取り組ませていただきました。

今そこにある小さな命を守り、子供たちを社会の力に育てていくことが大人の責務です。強い使命感をもって今後も取り組みます。

秋の臨時国会開幕まで、皆様のご意見を伺わせていただくため全国行脚をさせていただきます。

引き続き、ご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

報告 「塾と教育」に掲載されました！

民間教育に携わる方々の熱い思いを教育政策に反映すべく議論を重ね、教育改革に取り組むことを目的とした超党派議員連盟の設立を呼びかけ、主旨に賛同してくださった多数の国会議員や各塾団体の方々が集まりました。

子供たちが教育において格差を受けないよう、民間教育の場から政策を実践すべく活発な活動を始めてまいります！

TOPICS

「超党派 民間教育を考える議員連盟」設立総会 開催

大島九州男参議院議員（国民民主）の呼びかけにより、「超党派 民間教育を考える議員連盟」が6月13日（水）、参議院議員会館102会議室にて開催された。

同連盟は、学習塾を中心とした民間教育に携わる方々の「熱い思い」を教育政策に反映させるべく議論を重ね、国家百年の計として教育改革に取り組むことを目的としている。

主旨に賛同した多数の国会議員、各塾団体の会員などが集まり、文部科学省、経済産業省から教育に関する今後の取り組み等について説明を聞き、塾団体から国や行政に対する要望等が出された。

国家百年の計としての教育改革

民間教育の現場における様々な課題や提案

TOPICS

17 塾.教育

塾.教育 16

活動　西日本豪雨で被災された岡山県倉敷市でボランティア活動をさせていただきました

西日本豪雨で被災された方への支援をさせていただくため、事務所スタッフが岡山県倉敷市福田町へ赴き２週間活動させていただきました。

決壊した土手の復旧作業は急ピッチで行われ、少しずつ回復。

河川の氾濫など、甚大な被害が発生した真備町ではボランティアの受け入れができない状況下にあり、福田町での活動を行わせていただきました。

事務所スタッフは主に、被災された方のお宅の土砂の取りだし、ごみの搬出など家屋の片づけに従事しました。

「水分補給に」と被災しながらも優しい一言をかけていただいた折に一緒に写真を撮っていただきました。

被害の爪痕はなまなましく、復興までには時間がかかります。

被害を受けた方が１日も早く元の生活に戻れるようお祈りするとともに、出来る限りの支援をさせていただければと決意を新たにしました。

「いのちを守る。」大切さをあらためて強く感じました。

復興　福島県の内堀雅雄知事から要望を伺いました

東日本大震災から７年が経過し、福島県民の皆さまのたゆまぬ努力に加え、国内外からの支援により一歩一歩復興が進んでいます。

今もなお多くの県民が避難生活を余儀なくされている中、避難者の生活再建や帰還に向けた支援、廃炉・汚染水対策、風評・風化対策、特定復興再生拠点の整備、事業・生業の再生、各分野での人材不足への対応など、幅広い課題に対して、時間の経過や復興の進捗に伴って生じる新たな課題にも的確に対応する必要があります。

帰還困難区域全体の復興・再生に向けた市町村による中長期的な構想をしっかりと受け止め、市町村の取組を最大限に支援し、将来的に帰還困難区域の全ての避難指示を解除すること。

福島イノベーション・コースト構想で、失われた浜通り地域等の産業基盤の再構築を目指すこと。

課題は明確です。

私たちひとり一人が、復興を自分のこととしてとらえ、たゆまぬ前進をしていくことが必要です。

©2011-2018 大島九州男事務所 国会レポート(2018.7)